

| 目指す子ども像 | ■仲間と価値や目標を共有しながら一緒に活動を進めていく | | | ■仲間を誇らしく感じながら、自分たちの思い描く価値や目標に向かって背伸びをしていく | | | ■幼児期で培った自己効力感・主体性を支えに、幼・保での経験を生かして、新たな環境に適応していく | | | ■小学校における規則や生活習慣を内在化し、学習活動を充実させていく | | | ■学びから得られる達成感を支えに、新たな課題に取り組んでいく | |
|---------|-----------------------------|---------|-------|---|-------|-------|---|-----|-----|-----------------------------------|----------|----------|--------------------------------|--|
| 行事 | 4~7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6・7月 | 9~12月 | 1~3月 | |
| 校園内 | | 運動会 | ハロウィン | やきいも | クリスマス | ふゆまつり | 発表会 | 卒園式 | 入学式 | | 夏探しの学校探検 | 体育発表会 | | |
| 交流 | 附小運動会 | (就学時検査) | | あきまつり | | | 一日入学 | | | | | (附属小運動会) | 一日入学 | |

学びの芽生えを大切に活動の充実
協同的・探究的な遊びや体験の充実

「ゴジラの種」を育てたい！ 「マグマ」を掘りたい！

「『ゴジラの種』を見つけたよ！」「前、風穴で歩いた場所と似てる！」

遊びを通して、自ら興味をもって身近な環境と関わり、不思議と出会っていく。

「ゴジラの種が育ちやすいもっと寒いところはないか？」 「石の色が全然違う！」

試したり、考えたりしながら自分なりに意味づけしていく。

「新聞にすれぱいいんじゃない？」 「富士山を作って研究員になろう！」

様々な考えに触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分なりに表現する。

「シイタケの種ってどこにあるの？」 「この階段はウンモとセキエイでできてんだね！」

自ら環境に関わり、自分たちの生活を共に創り出そうとする。

(生活科を軸に)活動を通じた学びの充実
協同的・探究的な学びを促す教材・学習活動の設定

「幼稚園で育てたお花をまた育てたい」「僕はコスモスを育てたことがあるよ」「コスモスは秋のお花だから難しいよ」

「虫や鳥に食べられたらどうしよう」「かかしを作ろう」「鳥よけを作ろう」「プーメランで追い払おうよ」

「水やりは毎日1回、虫よけに霧吹きをつけてみよう」

「一生懸命育てたら、お花だけじゃなくて、自分も成長したよ」

きりののはサイクルの自覚的に活用していく
“学びを自覚する表現活動”を仲間と共有する学びへ

「みんなと水鉄砲で遊びたい」「プラカップを的にしようかな」「ピラミッドみたいに見えるよ」

「どうやったら水鉄砲がよく飛ぶかな」「キャップを変えたいよ」「強く押すといいよ」「ストローは？」

「すごいのができたよ、見て見て」「えっ、すごい、私もやっていい？」

「みんなとやったり、工夫したりしたら楽しかったし、自信がついた」

「ゴジラの種」を育てたい！ 「マグマ」を掘りたい！

「『ゴジラの種』を見つけたよ！」「前、風穴で歩いた場所と似てる！」

遊びを通して、自ら興味をもって身近な環境と関わり、不思議と出会っていく。

「ゴジラの種が育ちやすいもっと寒いところはないか？」 「石の色が全然違う！」

試したり、考えたりしながら自分なりに意味づけしていく。

「新聞にすれぱいいんじゃない？」 「富士山を作って研究員になろう！」

様々な考えに触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分なりに表現する。

「シイタケの種ってどこにあるの？」 「この階段はウンモとセキエイでできてんだね！」

自ら環境に関わり、自分たちの生活を共に創り出そうとする。

「幼稚園で育てたお花をまた育てたい」「僕はコスモスを育てたことがあるよ」「コスモスは秋のお花だから難しいよ」

「虫や鳥に食べられたらどうしよう」「かかしを作ろう」「鳥よけを作ろう」「プーメランで追い払おうよ」

「水やりは毎日1回、虫よけに霧吹きをつけてみよう」

「一生懸命育てたら、お花だけじゃなくて、自分も成長したよ」

「みんなと水鉄砲で遊びたい」「プラカップを的にしようかな」「ピラミッドみたいに見えるよ」

「どうやったら水鉄砲がよく飛ぶかな」「キャップを変えたいよ」「強く押すといいよ」「ストローは？」

「すごいのができたよ、見て見て」「えっ、すごい、私もやっていい？」

「みんなとやったり、工夫したりしたら楽しかったし、自信がついた」

「ゴジラの種」を育てたい！ 「マグマ」を掘りたい！

「『ゴジラの種』を見つけたよ！」「前、風穴で歩いた場所と似てる！」

遊びを通して、自ら興味をもって身近な環境と関わり、不思議と出会っていく。

「ゴジラの種が育ちやすいもっと寒いところはないか？」 「石の色が全然違う！」

試したり、考えたりしながら自分なりに意味づけしていく。

「新聞にすれぱいいんじゃない？」 「富士山を作って研究員になろう！」

様々な考えに触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分なりに表現する。

「シイタケの種ってどこにあるの？」 「この階段はウンモとセキエイでできてんだね！」

自ら環境に関わり、自分たちの生活を共に創り出そうとする。

「幼稚園で育てたお花をまた育てたい」「僕はコスモスを育てたことがあるよ」「コスモスは秋のお花だから難しいよ」

「虫や鳥に食べられたらどうしよう」「かかしを作ろう」「鳥よけを作ろう」「プーメランで追い払おうよ」

「水やりは毎日1回、虫よけに霧吹きをつけてみよう」

「一生懸命育てたら、お花だけじゃなくて、自分も成長したよ」

「みんなと水鉄砲で遊びたい」「プラカップを的にしようかな」「ピラミッドみたいに見えるよ」

「どうやったら水鉄砲がよく飛ぶかな」「キャップを変えたいよ」「強く押すといいよ」「ストローは？」

「すごいのができたよ、見て見て」「えっ、すごい、私もやっていい？」

「みんなとやったり、工夫したりしたら楽しかったし、自信がついた」

自信：ようちえんはまかせて！
自律的な生活習慣を確立する時期

あこがれ：1ねんせいってかっこいい！
学校生活への思いを明確化する時期

期待：がっこうたのしみ！
自信をもって学校生活に臨む時期

期待と不安：学校に慣れる時期

安心：活動を始める時期

挑戦：活動を楽しむ時期

成長の自覚
1年間を通じた成長の確認とこれからの成長への期待

安心して就学を迎えられるための活動の充実

■運動会(アーチ作りや司会など)
・自分の役割を果たす中で、達成感や自信が感じられるよう配慮する。
・年下の子との関わりから、大きくなった自分の誇りにつながっていく。

■当番活動
・毎日の園の活動や遊びを自分たちが主体で進めているという自覚をもつ。
・自分たちで出来ることが誇らしくなるような活動を組み入れる(生活で困っている事の改善一落葉集めなど)。

■附属小学校審査会の準備
基本的な生活習慣について、個別の状況を把握し、一人一人の自信につながるよう援助する。

■学校ごっこ
「学校ごっこ」において学校生活に準じた活動を経験してみることが、より一層小学校への規定感を高めていけるよう配慮していく。それとともに、仲間への愛着、誇り、よさを認める交流の機会を設ける。

■一日入学
小学校の実際の生活を知ることによって、不安を減らし、就学に向けて、具体的な準備をしていけるよう取り組んでいく。

■通学路確認、バス登校の練習
家庭と連携し、スムーズな学校生活のスタートにつながる援助を行う。

■パン給食
幼稚園と小学校における生活における段差を減らすよう配慮していく。

学校に安心感を持てる活動の充実

■がっこうたんけん
・自分の意志で、繰り返し学校の様々な場所に出かけることで、不安を取り除き、学校が安心できる場であると実感できるようにする。
・他学年の児童や先生と関わることで、人と関わる楽しさ、学校への愛着を持てるよう、活動を設定する。
・知らなかったことを知り、分らなかったことが分かることの喜びを、仲間と共有する楽しさを体験できるようにする。

■マイフラワー
・幼稚園・保育園で体験したことを取り入れ、自信をもって取り組める活動とする。
・自分が大切に育てている生命に毎日会うことが、学校へ行く動機の一つとなるようにする。
・幼稚園・保育園の時よりも、責任感や仲間と共有しながら得た知識を持って育てられるようになった自分に誇りが持てるようにする。

学校生活に慣れ、学習活動を充実させていく

■なつだ あそぼう
・みんなと遊ぶ活動を通して、集団の中の自分の存在や友達と協働することのよさに気付くことができるように遊びのルールや材料を設定する。

■あきまつり
・きりののは サイクルを自覚的に取り入れるように促し、季節の変化やその季節ならではの遊びを工夫できるようにする。
・お祭りに幼稚園児や他学年の児童を招待する活動を通して、自分が「してもらう存在」から「あげる存在」に成長していることに気付くことができるようにする。

自立心を高め新しい生活をつくり、就学を迎えられるための保育環境や生活習慣の調整

■学校に類似した環境を取り入れる(机と椅子、パン給食など)
■時間を意識して生活を組み立てていく(時計の配置、時計の「読み」を意識化させる生活習慣)
【個別：着替え・食事場面・身支度など基本的な生活習慣の見直し
集団：クラスの友達と過ごす際の約束の確認】
【着替え・食事・手洗い】
■生活の場を自分たちで整えられるよう環境を構成する。

生活・遊び中心の環境から
学習中心の環境へ

「どの子も」安心できるような、学校・学級環境の整備

■「個」に応じて慣れるスピードが異なることに配慮した環境設定
(eg. 教室内の授業でも机や椅子を使わない時間を設ける、活動の導入に読み聞かせや手遊びなどを取り入れる)
■「個」に応じた生活・学習習慣の支援(eg. 上級生による手伝い)
■緩やかなスタートを支える工夫(eg. 半日登校の実施、保護者によるお迎え、給食の開始を遅らせる)

2年生に向けて、自ら学校生活に適応するための学校・学級環境の整備

■生活に見通しをもてるように必要な情報を視覚化して提示する
(eg. ルールを視覚的に理解できる掲示物、1日の流れの表などを設置、準備する物を写真で提示する)
■相手意識をもった活動の設定(eg. 幼稚園児との交流活動)

| 大学・地域との連携 | <p>◆共同研究 ◆附属校園公開研究会、コース・系との研究会(学習会)実施 ◆大学・教職大学院授業での連携・交流(大学「初等生活科教育学」「生活科内容論」(前・後期)、「子どもの育ちを支える校種間連携」(後期)など)</p> <p>◇やまなし幼児教育センターとの連携 ◇派遣事業において接続期カリキュラムの研修実施 ◇附属間および地域における幼小合同研修・研究会の実施 など</p> |
|-----------|---|
| 要配慮児童への | <p>要配慮児(発達障害や発達に偏りをもつ子ども、不適切な養育下にある子ども、貧困の影響下にある子ども、外国にルーツがある子どもなど)への切れ目ない支援</p> <p>幼稚園での支援/記録の整理/ケースカンファス → 保護者、附属小との情報共有 → 幼・小・大学共同で個別支援計画の再編 → 附属小における支援開始/記録作成 → フォローアップ/支援計画の変更/支援の続行</p> |